

製品安全データシート (SDS)

CCP-101 硬化剤-1

1. 化学物質及び会社情報 (2016. 7. 13)

化学物質等の名称(製品名): タフコートCCP-101 (硬化剤)

会社名: アルバー工業株式会社

住所: 大阪府寝屋川市堀溝2丁目10-1

担当部門: 開発室

作成者: 石川 学

電話番号: 072-812-3491

FAX 番号: 072-812-3492

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

引火性液体		: 区分外
急性毒性	経口	: 区分4
	経皮	: 分類できない
	吸入 (ガス)	: 分類できない
	(蒸気)	: 分類できない
	(粉塵、ミスト)	: 分類できない
皮膚腐食性/刺激性		: 区分1
眼損傷性/刺激性		: 区分1
呼吸器感作性		: 分類できない
皮膚感作性		: 区分1
生殖細胞変異原性		: 区分2
発がん性		: 区分2
生殖毒性		: 区分2
特定標的臓器/全身毒性 (単回ばく露)		: 区分1
特定標的臓器/全身毒性 (反復ばく露)		: 区分1
吸引性呼吸器有害性		: 分類対象外
水生環境有害性 (急性)		: 区分2
水生環境有害性 (慢性)		: 区分2

【GHSラベル要素】

「絵表示」 炎、感嘆符、健康有害性、環境

「注意喚起語」 危険

「危険有害性情報」

- ・ 引火性液体及び蒸気
- ・ 皮膚刺激
- ・ 強い眼刺激
- ・ 遺伝子疾患のおそれ
- ・ 発がんのおそれ
- ・ 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
- ・ 臓器の障害
- ・ 長期又は反復ばく露による臓器の障害
- ・ 水生生物に毒性
- ・ 長期的影響により水生生物に毒性

【ラベル要素 絵表示】



「注意書き」

《予 防 策》

1. 火気のない局所排気装置を設けた場所で使用して下さい。
2. 塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気を吸込まないようにして下さい。
3. 取扱い中は、皮膚に触れないようにし、必要に応じて、有機ガス用防毒マスク、送気マスク、頭巾、保護めがね、長袖の作業衣、えりまきタオル、保護手袋等を着用して下さい。
4. 塗料に付着したウエスや塗料カス、スプレーダクト等は廃棄するまでは必ず水につけておいてください。
5. 容器からこぼれた時には、布で拭き取って水を張った容器に保管して下さい。
6. 取扱い後は、手洗い及びうがいを十分行ってください。
7. よくフタをし、40℃以下の場所で貯蔵して下さい。
8. 子供の手の届かないところに保管して下さい。
9. 本来の用途以外に使用しないでください。

《応急処置》

1. 火災時には、炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。
2. 皮膚に付着した場合には、速やかに多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化がある時には、医師の診察を受けてください。
3. 目に入った時には、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
4. 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなったときには、安静にし、医師の診断を受けてください。

《廃 棄 》

廃棄する時は、産業廃棄物として処理して下さい。

3. 組成、成分情報

単 一 化 合 物 ・ 混 合 物 の 区 分 : 混 合 物

成分及び濃度（危険有害性物質を対象）：

成分名	Cas No.	濃 度	PRTR 対 象
重合脂肪酸類	不明	53.6	
ジアミノジフェニルメタン・アルキルグリシジルエーテル付加物	68855-22-1	46.4	

4. 応急措置

吸入した場合：

- ・蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則或いは止まっている場合には人工呼吸を行う。
- ・嘔吐物は飲み込ませないようにする。直ちに医師の診断を受けること。
- ・蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合：

- ・付着物を布にて素早く拭き取る。
- ・大量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
- ・外観に変化が見られたり、痛みがある場合は医師の診断を受けること。

目に入った場合：

- ・直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗うこと。
- ・できるだけ速く医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合：

- ・誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
- ・嘔吐物は飲み込ませないこと。
- ・医師の指示による以外は無断で吐かせないこと。

5. 火災時の措置

使用可能消火剤：炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂

消火方法：

- ・水を消火に用いてはならない。
- ・適切な保護具（耐熱性着衣）を着用する。
- ・可燃性の物を周囲から速く取り除くこと。
- ・指定の消火剤を使用すること。
- ・高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却する。
- ・消火活動は風上から行う。

6. 漏出時の措置

- ・作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。
 - ・漏出物は密閉できる容器に回収し安全な場所に移す。
 - ・乾燥砂、土、その他不燃性のものに吸収させて回収する。大量の漏出には盛土で囲って漏出を防止する。
 - ・付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を速く取り除く。
 - ・着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
 - ・衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
 - ・付着物、廃棄物などは関係法規に基づいて処理すること。
-

